

## それなのに生きている

川上与志夫

当年とって七十歳。よくもまあ、永らえてきたもんだ。あの世に旅立つチャンスもまああつたのに……。明日の朝目覚めなければよいものを、と思つたことも何度かあつた。

おもしろいよなあ、人生は。見てみろよ、生きたい人は旅立って、死にたい人は生かされて……。金持ちになりたい人はいつまでも貧しく、お金にこだわらない人は豊かに恵まれる。何でほくだけが……。まったく、思いどおりにならないもんだよ、人生は。

そうだろ。人生には悲しいこと、苦しいこと、いやなことがいっぱいある。だけど、うれしいこと、楽しいこと、心がうきうきするようなことだつていっぱいある。そう、ぼくは思うんだ。この世にはプラスとマイナスが五〇%ずつ存在しているってね。それが均衡をたもっているんだよ。不調和と思えるところも均衡の一端をになっている。それが調和っていうもんだ。幸せをひとり占めしようなんてのが、そもそもの間違いなさ。

新聞やテレビには、たまげることがよく出てくる。たとえばオウム事件で子どもを拉致された親。自分は被害者だと思つていたのに、わが子が他人を殺傷したのだ。自分は加害

者の親になつてしまつた。反転の苦惱。これには想像を絶するものがあるよなあ。

ぼくもこじれたゼンソクや肺炎で救急車のお世話になつたことが三度もある。ロッキー山脈で道に迷つて死を覚悟したこともあつた。だけど、世間の患難にくらべたら、こんなのはものの数ではない。本物の苦境とか患難なんて、そうざらにあるもんじゃないのさ。

振り返つてごらんよ。受けた恵みのほうがずっと大きいはずだ。思いどおりにならないことを思いどおりにしようとするから、悩むのさ。苦しむのさ。それは独り芝居のものがきだよ。神さまにどーんとあずけてごらん。道が開けるから。だから、いっしょに歌おうよ。「望みも消えゆくまでに、世の嵐に悩むとき、数えてみよ主の恵み、なが心は安きを得ん」